

2007年（平成19年）4月1日発行

チューリップ狂時代

チューリップがヨーロッパに渡ったのは、1543年。トルコ駐在オーストリア大使がウィーンに持ち帰ったのが記録上最も古いチューリップです。その後、オランダに渡ると瞬く間に流行し、品種（変種）作りが盛んになりました。ウィルス病にかかったものが珍奇種として賞賛されたり、1個の球根がビール工場と交換されたりしました。特に、1630年代の熱狂はチューリップ狂時代として名高く、流行が終息すると多くの自殺者が出たといわれています。そのありさまは19世紀フランスの小説家アレクサンドル・デュマの「黒いチューリップ」に描かれています。

そのチューリップの流行はトルコに逆輸入され、18世紀前半のトルコ文化の爛熟期がチューリップ時代と呼ばれるほど象徴化されました。

「咲いた、咲いた、チューリップの花が」と童謡に歌われ、春の花としてさくらの花とともに日本人に最も親しまれている花がチューリップです。

チューリップは、西ヨーロッパから中央アジアの乾燥した半砂漠地帯や草原地帯にかけて自生しています。

中世のトルコ（オスマン帝国）からヨーロッパに渡り、特にオランダで多くの品種が生まれました。現在のオランダではチューリップ王国にふさわしく、数多くの切り花や球根が世界中に駆け巡っています。

春の花 チューリップ！



チューリップの名前は どこから？

チューリップという名前は、実は間違っただけで伝えられたといわれています。花の形が「チューリパ」に似ているというトルコ人の言葉が誤ってヨーロッパに伝えられ、チューリップと呼ばれるようになったといわれています。チューリパとはトルコ人が頭に巻くターバンのことで、「ターバンに形が似ている花」と言われたのを、神聖ローマ帝国のトルコ大使ブスベックは聞き間違えたとか。

チューリップの花言葉

チューリップの花言葉は「思いやり」ですが、花色によって様々な愛を伝えます。

赤「恋の告白」桃「恋の芽生え」

お年頃「紫」永遠の愛情、不滅の愛「黄」望みなき愛、かなわぬ恋

白「失恋、失われた愛」緑「魅惑、美しい瞳」



チューリップの偉大な力

チューリップはフラワーセラピーによく用いられます。

黄色は代謝機能を高め、白やピンクは精神を安定させてくれるそうです。そして、一番人気の赤い花は反射的血を動かす作用があり、低血圧の人の疲れを癒し、めまいの症状を改善します。

春・チューリップ